

天山南路
に於ける
傳播

新疆土民
の歸依

和闐人の
降伏と齋

唐の高祖、使を遣はして修好を求め、亞刺比亞國王、其の族賽爾第蘇哈爸及甘古士を來朝せしめたるは、實に西曆六百二十八年（貞觀二年）とす。太宗之を留め、一寺を廣東に建て、居らしむ。後ち賽爾第蘇哈爸は哥蘭經を奉じ、專心布教に従ひ、多くの信者を得るに至る。是れ支那に回々教の行はれたる始とす。

又天山南路には、屢、亞刺比亞商人の來てマホメツト教の功德を鼓吹する有り。次で實際に傳教したるは、此時或は少しく其の以前、即ち六世紀の末年なるべし。雲南地方にも、古來同教盛に行はれしが、土人の口碑等に依て考ふれば、唐朝の頃、始めて東南海口より入りしものにて、天山南路より赴きたるにはあらざるが如し。

新疆土民の多く、マホメツト教に歸依したるは、西曆七百年代に在りて、亞刺比亞の名將クタイバ、大軍を率ゐて中央亞細亞地方を侵略し、破竹の勢を以て天山南北を攻略し、同教を流布したる以來なり。當時亞刺比亞宗教軍の勢甚だ強くカシガル以東は、忽ち攻略する所と爲りしも、獨り和闐人は痛く之に抗敵し、兵を用ゆること二十五年、遂に亞刺比亞軍の勝を制する所と爲れり。此役亞刺比亞軍の名將多く戦死し、其の墳墓、今に和闐、葉爾羌邊に遺り、土人は之を齋旦シヤイダンと呼びて尊崇す。